キューアイ❤ハラスメント Lovemaking Harassmen

求愛❤ハラスメント

Lovemaking Harassment

LOVE MAKING HARASSMENT

COURT SHI

MAKING LOVE

FOR R18 ADULT ONLY

BLUE LOCK UNOFFICIAL FANBOOK KAISER × ISAG

ISAGI
11

うし、今日の連携パターンは
完璧に刺さったな…

あの場面で〜〜して〜〜〜〜してたら…

ブッ…

ああでもそれだと…

ブッ

ブッ

ISAG

ニヤ

ニヤ

ちょっ、おい
カイザー！

ぐイッ

いっ

なにすんだよ
カイザー

ドン

お前…

……

フーッ

こいつ、

フーッ

なんてカオしてんだ

の

グッ

うわ、近――

ちゅっ♥

ビクンッ♥

ぷぅ

ぴちゅっ♥

くちっ

んっ

しっこ…！

ぐっ

ビクッ

力、入んねえ…♡

ビクッ

ぐりっ♥

ぎゅむっ♥

ン、

あ、ヤバい…♡

ぁ、まて
ぶるんっ
ハッ、随分と元気じゃないか
なあ？世一ィ
かあぁっ
っ……！

しゅこっ♥
ちゅこっ♥
はっ、あ
ふっ♥
イッ、あっ
ンン〜〜〜ッ♥
ビクン♥
ビクン♥
ぴゅるるっ♥
はぁっ♥

……ハ、

ドロ…

随分と溜まっていたようだが？

フイッ

うっせーよ

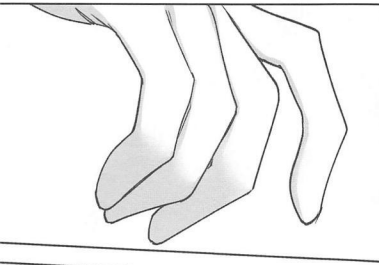
言っとくけど、今は無理だからな

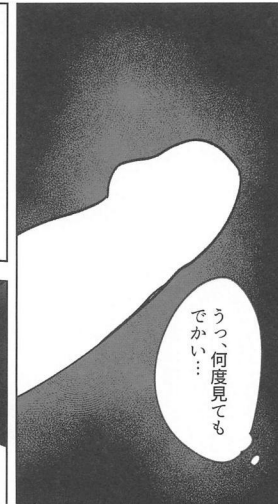
ナカ洗ってねえし…

アー、
お前は黙って見てるだけでいい
いいな？

マジでやるのかよ
コイツ!?

スル…





は、
それ、おれの――
ヌル
むわっ
ぬちっ♥
ゴク…

ぢゅぷっ♥
しゅぷっ♥
くちっ♥
やっぱこいつ体温高いな…あつい
ちゅっ♥
はーっ
はーっ
くちゅっ♥
ぎゅっ
ッ

フーッ
スン
くちっ♥
ぐちゅっ♥
！

スーッ
あ…？
まさかこいつ
。

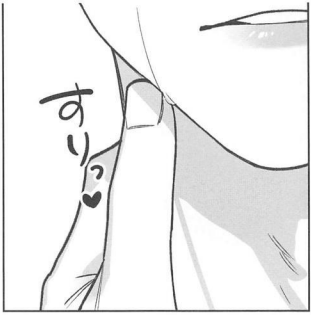
俺の
においを嗅いでる…？
ぢゅこっ♥
俺のにおいを
オカズにしてるのか…!?
ぐちゅっ♥
ぬちっ

〜〜〜〜っ！

ふ、

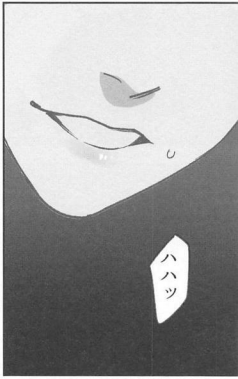
俺のオナニーで興奮したか？

世一


すりっ♥

ぢゅるぉ…♥

耳と首で
感じてんなァ


ハハッ

〜〜〜〜っ！
ぶわっ

はあっ♥

あ〜クソッ
音とにおいで
おかしくなりそうだ……！

しゅこっ♥

こポっ♥

ちゅこ♥

ン……っ♡

ガリッ

ビクッ

っう

ゾクゾク

はぁっ

ISAGI

ビクッ♥

ッ

ピュルル〜〜〜ッ♥

はーっ

よいち……っ

ぬちっ♥

ぬちっ♥

ユル

あ、
悪い、すぐ退く

はーっ…
ぽたっ

ぐいっ

世一？

ぺろっ

は、世一…？

ぢゅっ♥
ンの…ッ！
れろ
ぉ…♥
！
ガッッッ
——そんなに煽って
abibas

覚悟はできてんだろうなぁ？

ぺろっ

ハッ

あんなんじゃ足りねえよ

グイッ

望むところだっつのクソダーリン？

このあと
滅茶苦茶セックスした

嫌な予感はしていた。
「ん、も、いいから…っ、挿れろよっ！」
四つん這いになったまま、振り返って睨み付ける。
しつこいのはいつもだが、今日は執拗に弄られていた。
俺の尻から顔を上げたカイザーが形の良い唇を吊り上げる。
「何だ、もう我慢できないのか」
「前戯がねちっこいんだよ、テメェは…！」
「丁寧に解してやってるんだろう？　これから俺のを咥え込むんだからな」
「ぁう…っ、やめ、」
中に入れた指をクイと曲げられて喉を反らせる。
的確に弱い箇所を突かれて喘ぐと、カイザーは嬉しそうに目を細めた。
クソッ、コイツの思い通りになってたまるか。
とは思っても『快感』という主導権を握られている今、ベッドの上の俺は無力に近い。
練習試合を終えた後、互いに昂ったまま熱を発散したはいいものの、やっぱり物足りなくてカイザーの個室になだれ込んだ。
いつものように肌を重ねる最中に気付く。
コイツ、何か企んでやがる――。
「ん、はやく…、も、大丈夫だって…」
「そうかそうか。そんなに世一くんは俺のモノが欲しいか」
「くそ、てめ…っ」
「それなら、オナニーを見せろ」
「……は？」
「俺のを挿れて欲しけりゃ、ここで抜いて見せろと言ってんだ」
機嫌良く笑みを浮かべるカイザーに目を丸くする。
碌でもない事を企んでいるとは思っていたが、何を言い出しやがるんだ。
「な、何言って…」
「俺のが欲しいんだろ。ホラ、早くしろ」
「んぁっ…！　や、やめ、」
再び中の指を悪戯に動かされて喘ぎ声が漏れる。

腹の奥がジンジンと疼いてくる。散々カイザーに慣らされた尻穴は、早く太いチンコに貫かれたくてひくついていた。
「俺のオナニー、見せてやっただろうが。それなら当然、世一くんも見せてくれるよな？」
「た、頼んでねぇし…、んっ、」
「クソ黙れ。いいから自分で気持ち良くなってみせろ。上手くできたらご褒美をくれてやる」
「ぁ、ん…、く、くそ…」
尻穴から指が抜けていく感覚さえ快感に変わる。
さっきまで中を蹂躙していた指がなくなって、物足りなさに涙が滲んだ。きっとカイザーは俺が動くまで絶対に手を出してこない。
愉しげに笑む目の前の男を睨み付けながら、座り直して大きく脚を広げる。そり返って勃つ自らのチンコに手を伸ばし、ゆっくりと上下に扱き出した。
「ん、はぁ…、っ、ふ、」
「ほう？　一人でする時はカリ首を虐めるのが好きか。でもお前が一番気持ち良いのは裏筋の根本だぞ？」
「うっさい…、ん、ん、」
見られている――。穴が開くほど見つめられて、チンコを扱きながら興奮する。
カイザーは立てた膝に肘を置いて、余裕の面持ちで口を挟んできた。
コイツって本当にセックスの時はよく喋る…。
やがて玉から迫り上がってくるような絶頂感が訪れ、俺の呼吸も荒くなる。ハッハッと犬のように肩で息をしながら夢中でチンコを擦り続けた。
だけど、一向に射精できない。あまりのもどかしさに混乱しながら扱く力を強くする。
「な、なんで、…？、はっ、んぅ、っ」
「ンー？　世一くんは一人でオナニーもできない程にベイビーだったか？」
「んっ、んっ、いきたい、いきたいのにっ、」
とっくに射精していてもおかしくない。それこそさっきはカイザーに扱かれて普通にイッたのに。
そういえば、カイザーとセックスするようになってから、まともにオナニーしていない。

まさか一人でイケなくなった――？
扱く手を止めて青ざめると、小さく笑ったカイザーが自らのバスローブに手を掛ける。
「ホント世一くんは仕方ないのねぇ。特別に最高のズリネタを提供してやる」
するりとバスローブを脱げば、カイザーの鍛え抜かれた美しい肉体が現れる。
そして割れた腹筋のもと、ドクドクと血管が脈打ってそそり勃つのは、ぶっといチンコ――。
見慣れている筈なのに、カイザーの白い肌と凶器にも近い極太チンコのコントラストがエロくて、ごくりと喉を鳴らして凝視する。
カイザーが口端を上げて見せつけると、俺のヘソの下をゆっくりと指差した。
「分かるか？　いつも世一のそこまでコレが入ってんだ。前立腺を擦って結腸ブチ抜いてやると、お前はヒンヒン嬉しそうにクソ泣いちゃうもんなぁ？」
「はぁ、ん、うるさ、っん、」
挿入の快感を思い出して夢中で前を擦る。
いつもカイザーのチンコに貫かれる度、ゾクゾクと体中に快感が駆け巡って、結腸を無理やり開かれると――。
カイザーの勃ち上がる凶悪なチンコを見つめ、うるりと瞳を潤ませた。早く、中に欲しい。
「ん、ぅ、あっ、」
耐えきれず、グジュリと音を立ててアナルに二本の指を差し込む。
舌を突き出して待ち侘びた充足感を味わうと、本能に従うまま指で奥を思い切り擦り上げた。
「はぁ、きもち、んっ、ぁ、」
「随分と気持ち良さそうだな、世一ぃ。乳首も弄ってみろ、もっとヨくなるぞ」
「んっ、ひ、やばいぃ、んん」
「あーあ。乳首と後ろでチンポ汁垂らしちゃって。お前の未使用童貞チンポ、放置されて泣いてんな」
「ぁ、っ、ふ、んんっ」
乳首を抓りながら尻穴を擦ると最高に気持ちいい。
夢中で快感を追いながら薄目を開けると、カイザーは興奮したように息を荒げて頬を上気させていた。

カイザーのチンコはこれ以上ない程に勃ち上がり、時折ビクビクと痙攣している。余裕がある素振りを見せているがカイザーだって辛そうだ。

すると獲物を前にした獣のように眼を光らせて、上唇をペロリと舐める。

「ハッ、俺の欲しくてたまんねぇってクソエロい顔してるぞ。ちゃんと一人でオナニーできていい子だな？」

「んっ、ぁ、いく、んん、いく」

「まだ待て。どうして欲しいか、言えるな？」

「んぅ、は、ぁ」

手を伸ばすカイザーに下唇を撫でられて肩を震わせる。ここまで焦らしておいて、それでもまだ俺に要求するなんて腹が立つ。

一矢報いてやろうと尻を弄る手を止めて、得意気に口端を吊り上げるカイザーへにじり寄る。

顔を傾け、形良く笑む唇に、ちゅう、と吸い付いた。

「はやく、挿れろよ。……お前だって、俺の中に入りたい癖に」

ニッと生意気に笑ってやれば、そそり勃つカイザーのチンコがピクリと反応した。

意地悪い主人に比べてチンコは随分と素直らしい。

カイザーは俺の後頭部に手を回すと強引に引き寄せて唇を奪う。噛み付くように唇を重ね、舌が差し込まれ、しつこいまでに甘く吸われる。

「ん、ぅ、っ、ん」

「……、世一ぃ。ンなクソ煽ってきて、覚悟できてんだろうなァ？」

さっきも垣間見た、興奮と苛立ちが混ざったような顔。やっと余裕がなくなったその様子に優越感が込み上げる。

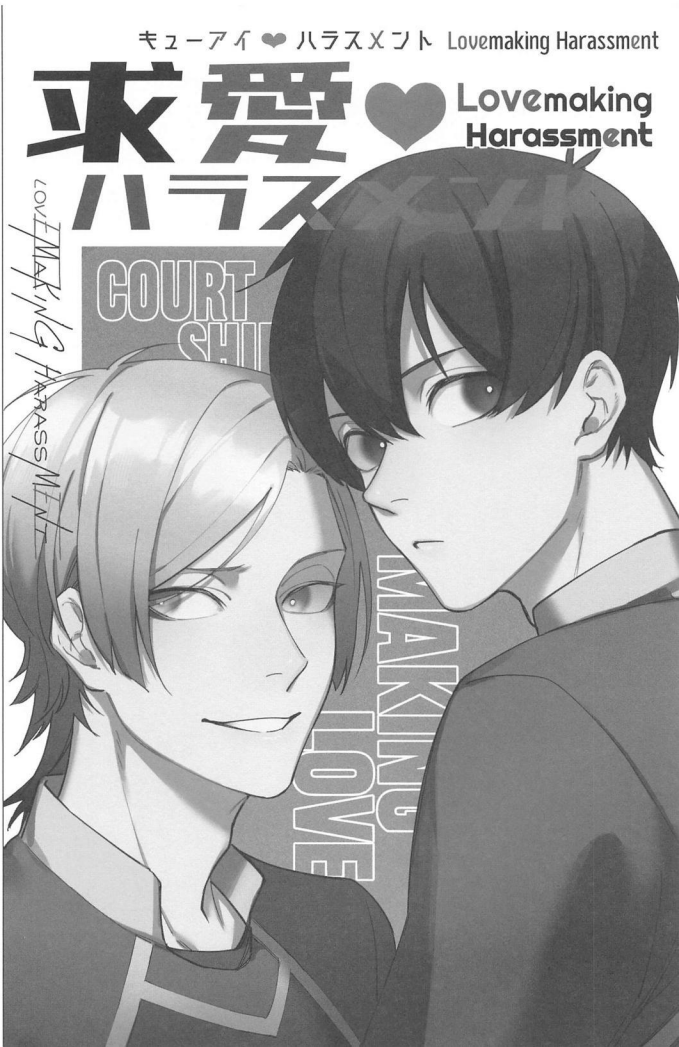
吸われて赤く腫れた自分の唇をペロリと舐め、挑発的に見上げた。

「だから、こんなんじゃ足りねぇって言ってんだろ。クソダーリン」

「……ハッ、クソ生意気」

そう言いつつ、嬉しそうに目を細めるカイザーに押し倒されながら、また俺達は唇を重ねた。

キューアイ❤ハラスメント Lovemaking Harassment



あとがきのようなもの

ギリギリながら脱稿することができました！
作業通話に付き合ってくれたフォロワー様、
原稿を手伝ってくれたフォロワー様、大変
ありがとうございました！

また、ななこ様に２人のその後のお話を
寄稿していただきました！
急なお願いだったのにもかかわらず
快く寄稿して下さって感謝しかありません…！
端から端まで舐め回すように読んでください。
ななこ様の御本もめちゃくちゃ楽しみです！

次は猟奇殺人やサイコパス、カニバリズム等が
テーマの血みどろで暗めなお話を描きたいな
なんて思ったり思わなかったり…。
人魚パロのお話も描きたいですね、いつか。
あと次こそは背景を描く余裕をもって原稿
したいです。懺悔。

ウェ〜ブボックス

よければお願いします!!

スペシャルサンクス

寄稿
ななこ様(@ysdn_biglove)

原稿の助っ人
ちゃろ様(@_charo03)
ぎょる様(@dirry_g)
ｱｽﾞｷﾊﾞｰ様(@teeeekoku___wt)

求愛ハラスメント

BLUE LOCK UNOFFCIAL FANBOOK

発行日　2023.11.23

発行者　いぬ
Twitter: @nemui_2202
pixiv: 10687713
Mail: ruhuto0222@gmail.com

印刷　栄光印刷 様

無断転載・複製・複写・Web上への掲載（SNS・ネットオークション・フリマアプリ等）を禁止いたします。

Unauthorized reproduction, duplication, duplication, and posting on the web (including SNS, net auctions, and flea market apps) are prohibited.

20231123

10111011

BLUE LOCK UNOFFICIAL FANBOOK

Michael Kaiser ❤ Yoichi Isagi

presented by INU